

本科 0 期 1 月度

解答

Z 会東大進学教室

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T
京大英語／難関大英語 T（京大）
一橋大英語／難関大英語 T（一橋大）



1 章 総合問題 1

問題

【1】

A.

全訳

④自分が接触する人々に好かれたいと思うならば、敏感な感受性を養わなければならない。これは、もちろん、過度に敏感になるべきだと言っているのではない。⑥我々の敏感さは、他人の考え方や感情を理解することに向けられなければならない。③この敏感さを自分のことだけに集中させれば、我々は、簡単に感情を害したり傷ついたりすることになる。自分の視点が内面に集中すれば、劣等感が育つ。——それはあたかも、鏡面反射する潜水ヘルメットに頭を突っ込んでいるようなものだ。④もし自分にこの傾向があるならば、たいていの人々は我々に対して悪意を抱いたりはしてはいないし、たいていは我々のことをまったく考えてもいないということ、そして、我々のことを考えている人々は、こちらが気難しい態度をとってきたのでなければ、善意しか抱いていないということを覚えておくべきである。

B.

全訳

④自分が望んでいるものや考えていることを、言葉を使わずに身振りによって知らせることが可能である場合は多く、人間は話し言葉を使う前は合図で話をしていたのかもしれない。今でも考えを表すのに用いられていて、ほとんどの人が理解できる身振りはたくさんある。人が質問されて首を横に振ると、その人が「いいえ」を意味していることが、まるで「いいえ」という言葉を言ったかのようによく理解できる。同じように、質問に答えてうなずけば、その人が「はい」を意味していることがわかるのである。しかし、このような2つの簡単な答え方だけでなく、それ以外の多くの考えをも、合図によって表すことがある。⑥誰かが話している時に人差し指を唇にあてれば、それが「静かに」の意味であることは、まるでその言葉を声に出して言っているかのように、はっきりわかる。両手をあげれば、「降参」の意である。肩をすくめて首を横に振ると、「知らない」の意になることが多いのである。

【2】

解答

- (1) young
- (2) 若者には輝かしい将来があるが、老人には立派な未来はすでに過去のものとなっていること
- (3) c
- (4) 卑しい野心や安逸趣味にわびしく関わることなどはしない
- (5) b (6) cosmic (7) respect (8) d

この問題文の書き出しは、People are always talking ～ で、このように進行形に always (あるいは constantly, ceaselessly など) が加わると emotional な意味合いが強められ、とりわけ「非難」のニュアンスが加わることがあるのは諸君も承知していることと思う。次の If there is one — which I take leave to doubt — then … で、筆者の考え方は明瞭である。第2段落では筆者の若い頃を思い出して自分は問題児になりたかったと述べ、第3段落では若者を大いに持ち上げ、かつ筆者の健気な覚悟を開陳しているわけである。

(1)

◇ it is older people who create it, not the young themselves

= it is not the young themselves but older people who create it.

○ it is ～ who … は強調構文。

○ older people 「年上の人；大人たち」 ※絶対比較級

○ create = bring (something) into existence

○ it は 'the problem of youth' を指す。

○ the young = youth

(2) that は the young man has a glorious future before him and the old one has a splendid future behind him を指す。

○ glorious ≡ splendid

○ the rub = the central problem or difficulty in a situation (障害；困難)

Origin from *Shakespeare's Hamlet* — There's the rub. (そこが故障のある所〔困るところなのだ〕。)

(3)

○ you は「総称」。

○ identity = the fact of being who or what a person or thing is; the characteristics determining this (本人であることを確認できる特徴)。

以上より、下線部は「問題児であることが、人に本人であることを確認できる確かな特徴を与えてくれる」ということになる。

○ 下線部の内容を理解するためには第2段落の最初からよく読むことが必要で、ℓ. 7 の a new boy in a huge school という表現には筆者の不安な気持ちがよく出ている。

○ たとえ問題児としてでも他人の興味を引く存在になることは自分を確認することになるのである。

(4)

○ have not = do not have

○ a dreary commitment to $\left\{ \begin{array}{l} \text{mean ambitions} \\ \text{or} \\ \text{love of comfort} \end{array} \right.$

cf. commit themselves drearily to mean ambitions or love of comfort

○ dreary [driəri] = dull and depressing

○ commit A to B 「AをBに委ねる」

Ex. He *committed himself to* (= devoted himself wholly to) the cause of education.

(彼は教育事業に身を委ねた。)

○ mean 「賤しき」

※ 「汚い (根性) ; みすばらしい (姿) ; けちな (奴) ; 取るに足らぬ (才能)」 などすべて mean である。

○ love of comfort < love comfort

○ comfort [kʌmfərt] = the state of being free from pain, worry, anxiety, etc.

(5)

○ social *climber* = a person who tries to improve his social status by seeking acquaintanceship with distinguished or wealthy people (立身出世主義者)

内容的に非難の意味合いを持つのは **b** (social) climbers のみである。

a social workers (社会福祉事業担当指導員) ; **c** social reformers (社会改革者) ;

d social contributors (社会貢献者)

(6)

○ suburban [səbʊːrbən] = narrow in interests and outlook

○ 本文では *in violent and lovely contrast with* us suburban creatures からわかるように cosmic の対照的な表現になっている。

○ beings = creatures

(7) as if mere age were a reason for respect から判断する。

(8)

a 「筆者は若い頃、問題児と見なされていた。」 I would have been very pleased to be regarded ~ から判断して一致せず。

b 「筆者は若者が野心を持つよう望んでいる。」 筆者は they have not a dreary commitment to mean ambitions と言っているのであり、選択肢のような希望を述べてはいない。

c 「若者は非難されるところがないと筆者は考えている。」 He may be conceited, …以下から判断して一致せず。

d 「年長者は若者に偏見を持っていると筆者は考えている。」 一致する。 be prejudiced against < prejudice A against B (B に対して A に理由なく偏見を持たせる)

e 「筆者は若者は年長者を尊敬するのは当然であると考えている。」 最後の段落の but I do not turn for protection to dreary clichés …から判断して一致せず。

全訳

「若者というやっかいなもの」ということがいつも話題になっている。もしもそういうものがあるとすれば——あえて言わせてもらえば、私はないと考えているが——それを創り出すのは大人であり、若者自身ではない。基本的な点に注意を払い、若者もつまりは人間である——年長者とまったく同じ人たちであるという共通理解を持とう。老人と若者の間には違うところは1つしかない。つまり若者の前途には輝かしい将来があり、老人には立派な未来はすでに過去のものであるということである。おそらくそこが難しいところなのだろう。

私が十代であった時には、私は若いというだけで自信もない——巨大な学校の新入生なの

だと感じた。そして問題児として大いに興味をひく大物として見られたならば、私は非常に喜んだことだっただろう。その1つの理由としては、問題児になると自分がどんな人間であるかが確実にわかるのである。そしてそのことは若者が一心に探し求めているものの1つであるのだ。

私は、若い人はとてもおもしろい存在だと思う。彼らには自由の雰囲気がある。彼らは④卑しい野心や安逸趣味にわびしく関わることなどはしない。彼らはあくせくした立身出世主義者ではないし、物質的なものに夢中になるということもない。こういったすべてのことが彼らを生きるということ、つまり、物事の原点と結びつけるように思われる。それはあたかもある意味で彼らが私たち視野の狭い生き物とは対極的で、その一方で愉快も感じられる対照を示す無限の生き物のようである。私は若者と出会う時こういうことばかり考えるのである。若者は思い上がっていて、行儀が悪く、無遠慮で、ばかっているかもしれない。しかし私は、年をとっているだけで尊敬される理由になるかのような——年長者を尊敬せよというわびしい決り文句に助けを求めはしない。私は私たちが同等であると信じるがしかし、その一方でもしも彼が間違っていると思う時には、同等の人間として私は彼に反対の意見を述べるであろう。

注

ℓ. 1 ◇ the problem of youth 「若者というやっかいなもの」

○ problem = a thing that is difficult to achieve; a matter or situation regarded as unwelcome or harmful and needing to be dealt with and overcome (やっかいなもの; 不可解なもの)

○ of … 「同格」

○ youth = young people considered as a group

◇ If ~, then … 「~ならば, (そうであれば) …」

cf. As ~, so … 「~のように (そのように) …」

Though ~, yet … 「~だが, (しかし) …」

◇ one は a problem of youth を指す。

◇ which I take leave to doubt

○ which … 関係代名詞。先行詞は one。

◇ take leave to … = venture or presume to …

○ leave = official permission to …

ℓ. 2 ◇ doubt = feel uncertain about; question the truth or fact of

ℓ. 3 ◇ get down to 「(仕事などに) (…することに) (本腰を入れて) 取りかかる」

(If you get down to something, especially something that requires a lot of attention, you begin doing it.)

cf. *get down to business* (仕事に取りかかる)

get down to sleep (心落ち着けて眠りにつく)

◇ fundamental [fʌndəməntl] = (usually fundamentals) a central or primary rule or principle on which something is based

◇ after all 「(なんのかんの言っても) やはり」 ※米語ではまれな用法

- ℓ. 4 ◇ just = exactly
 ◇ elders = older people (ℓ. 2)
 ◇ There is only one difference between A and B 「AとBの間における相違点は1つしかない」
 ◇ an old man and a young one
 = an old man and a young man
 = an old and a young man
- ℓ. 5 ◇ glorious 「光栄赫々たる；威風堂々たる；(←より,) 壮烈なる；愉快極まる」
 ◇ the old one は the old man を指す。
 ◇ splendid は glorious の言い換え。
- ℓ. 6 ◇ maybe = perhaps ; possibly (ひょっとしたら)
- ℓ. 7 ◇ teenager = a person aged between 13 and 19
 ◇ just = only
 ◇ I was a new boy in a huge school … 《隠喩》
- ℓ. 8 ◇ I would have been very pleased to be regarded as something so interesting as a problem.
 ○ would have 過去分詞：過去の事柄についての推量・仮定。
 ○ 後続する to 不定詞は推量の場合は「理由」, 「仮定」の場合は「条件」を表す。後者をあえて書き換えれば, if I had been regarded ～.
 ○ be pleased to … = be glad to …
 ○ be regarded as = be considered to be
 ○ something so interesting as a problem
 ○ something 「大物；重要人物」
 ○ so 「(言葉にならぬほど) とても」
 ○ as 「～として」
- ℓ. 9 ◇ for one thing 「一つの理由としては」
- ℓ. 10 ◇ that = a certain identity
 ◇ busily = in a very active way
- ℓ. 11 ◇ air = the particular feeling or impression that is given by somebody or something ; the way somebody does something
- ℓ. 12 ◇ anxious = very eager to do something or for something to happen
- ℓ. 13 ◇ they have no devotion to material things < devote themselves to material things
 ◇ all this : 1つひとつは違うが全体として見るとほぼ同じ種類にまとめられるので all this と表現している。
- ℓ. 14 ◇ It's as if they were (in some sense) cosmic beings ～.
 ○ in some sense 「ある意味で」
 ○ cosmic [kú:zmík] = inconceivably vast
 ○ being = a living creature
 ◇ in contrast with 「～と比べて」

- ℓ. 15 ◇ violent 「(程度について) 強い; 極端な」
 ◇ All that is in my mind
 ○ この all の考え方は, That's *all* there is to it. (ただそれだけ。) や, *All* you have to do is to pour hot water and wait three minutes. (お湯を注いで3分間待つだけです。) の all と同じ。
 ○ that … 前方照応
 ○ all があるのに単数の that が用いられている理由は, ℓ. 13 all this と同じ。
 ○ be in my mind 「私の頭の中の考える場所の中にある→考えている」
 cf. be on my mind 「頭の上ののっかっている→気がかりだ」
- ℓ. 16 ◇ conceited [kənsítɪd] = excessively proud of oneself; vain (生意気な; 自惚の強い)
 ◇ ill-mannered = not behaving well or politely in social situations
 cf. ill = badly, wrongly or imperfectly
 ◇ presumptuous [prɪzʌmptʃuəs]
 = (of a person or their behavior) failing to observe the limits of what is permitted or appropriate (僭越なる; 不遜な; 大胆不敵な)
 ◇ fatuous [fætʃuəs] = silly and pointless
- ℓ. 17 ◇ turn for A to B 「AをBに求める」
 = go to B for A (help, advice)
 ◇ cliché [kliːʃeɪ] 「常套語句」
 ◇ mere = nothing but; only
- ℓ. 18 ◇ and [ænd] … 《対照》「しかし」
 ◇ with = against
 ◇ as 「として」

【3】

A.

解答

- (1) We played baseball until [till] it was too dark to see the ball any more.
 (2) He went [came] back to Japan for the first time in eight years.
 (3) He was always on the side of the weak against the strong.
 (4) The water there was so deep that I could not touch bottom.

解説

- (1) 「野球をやった」は played baseball (スポーツ名は無冠詞), 「ボールが見えなくなるまで」の「まで」は, 「～までずっと」の意味なので, until または till を用いて, until [till] S + V を後続させる。「暗くてボールが見えなくなるまで」は, too が与えられていることから, too ~ to … (あまりに～なので…できない) の構文を用いればよい。
- (2) 「日本に帰った」は, back が与えられているので, went [came] back to Japan となる (話者が日本以外の場所にいれば went back, 日本にいるか, 話題の中心が日本で

あれば came back)。「～ぶりに」は「～の間で初めて」と考えて、for the first time in ～ を用いる。

- (3) be on the side of ～ が「～の側に立つ」→「～の味方をする」の意味であることをしっていれば、he was on the side of ～ という書き出しがわかる。

「常に」には always が対応するが、「頻度」を表す副詞は be 動詞の後にくるのが原則なので、he was always on the side of ～ となる。

「弱者」には the weak が与えられており、また、「～に反対して」の意の against も与えられているので、「強者に対抗して」は against the strong となる。

- (4) 「とても～で、…なかった」という日本文で、so が与えられていることから、so ～ that S could not … の構文を用いればよいと推測がつく。主語には、water が与えられているので、「そこは」→「その水は」と考えて、the water there とする。touch bottom は見慣れない言い方かもしれないが、bottom が「底」とわかれば、「底につく」→「背が立つ」の意で用いられていることは類推できるはず。

B.

解答

- (1) Look out! The fireworks are going to explode [blow up] .
(2) I do not remember where I met him, but I (have) certainly met him somewhere.

解説

- (1) 「危ない！」は「気を付けろ！」の意味の呼びかけなので、Look [Watch] out!, または、Careful! とする (Danger! とすると、掲示で用いる表現となってしまうので、ここでは不可。また、Dangerous! とは言わない)。「花火」は fireworks だが、ここでは「目の前にある花火」と考え、the fireworks とする。

「爆発する」は explode, または、blow up を用いる。erupt は「火山が爆発する」時に用いる語なので、ここでは不可。「花火が爆発するぞ」は、話者が確かにありそうだと感じていることを表す be going to を用いる。

Ex. You're going to have trouble with that car before long.

(その車はすぐに故障するよ。)

- (2) 「～を思い出せない」は I do [can] not remember [recall ; think of ; recollect] ～ とする。また、「強調」の just を用いて、I just don't [can't] remember ～ としてもよい。「どこで会ったのか」は、文の後半で「あの人」が出てくるので、where I met him [her] と目的語を付けておく。したがって、「どこで会ったのか思い出せない」は、I (just) do [can] not remember where I met him [her] となるが、I cannot place him としてもよい。この place は、recognize or know a person by connecting him with past experience の意。

「…が、確かにあの人には会ったことがある」は、…, but ～ で始めればよい。「確かに」は、副詞を用いて surely, certainly としてもよいし、I know [I could swear] … を用いて、「…と断言してもいい」という気持ちを示すことによって「確かに」の意味合いを出すこともできる。

「あの人には会ったことがある」は、I have met him [her] だけでもよいが、やや弱

いので, somewhere や before を付け加える方が自然な英語になる。

【4】

解答・解説

- (1) what 「パーティーで私を最も楽しませてくれたことは、あなたを最も楽しませてくれたことと同じではないと思う。」
- (2) what 「その見出しが伝えようとしていることは、我が社にとって悪い知らせではないかと思う。」
- (3) what 「光と目の関係は、空気と肺との関係と同じである。」
- (4) what 「電話であなたが友達に何と言ったかは問題ではない。」
- (5) that 「その大会で私たちが全力を出し切ったということがとても大切だと思う。」
- (6) That 「サイモンが来なかったということは私には問題ではない。」
- (7) What 「社長がしなければならないことは、新たな支店を開くことだ。」
- (8) what 「今日できることを明日まで延ばすな。」
- (9) that 「新聞によると、汚染した血液を 10 年前に輸血した 55 歳の男性がエイズを発症したということだ。」
○ taint ～ 「～を汚染する；～を墮落させる」
- (10) that 「その少女は、名門大学に入ることを許されるために、自己を男性だと偽った。」
- (11) that 「脳の仕組みは大変複雑で大変神秘的なので、脳研究を『前人未到の森の中をさまようこと』と呼ぶ研究者もいる。」
- (12) that 「もう 1 度搜索をしても意味がないと、探偵は思った。」

【5】

A.

解答

b could swim → was able to swim [managed to swim]

解説

could は過去の 1 度きりの動作（その時…できた）を表すことはできない。

- a 「ジェラルドは大変若い頃、ピアノを上手に弾くことができた。」(could は‘過去の能力’を表す。そのとき 1 度だけ弾けた訳ではない)
- b 「ジャックは橋から落ちたが、何とか岸まで泳ぐことができた。」
- c 「もし気になさなければ、後で詳細に説明致しましょう。」(仮定法過去)
- d 「サラは、涙を見せながらも、彼の冗談に笑わずにはいられなかった。」(否定の could not do は、1 度きりの動作でも使用可能)

B.

解答

- (1) should inform
- (2) for, should
- (3) cannot have said
- (4) must have studied

(5) need not, been lost

解説

(1) 「学生はすべて校則を知っておく必要がある。」

necessary は‘必要性’の形容詞であるため that 節には仮定法現在かそれに代わる should を置く。

(2) 「中国経済を考慮すると、多くの学生が中国語学習に興味を持つことは不思議でない。」

この should は主観的な should と呼ばれ、(1) の‘仮定法現在の代用’とは異なることに注意。

(3) 「アンナが両親にそんなひどいことを言ったはずがない。」

○ ‘助動詞 + have 過去分詞’の形式

may have 過去分詞 「…だったかもしれない」

must have 過去分詞 「…だったに違いない」

cannot have 過去分詞 「…だったはずがない」

should have 過去分詞 「…だったはずだ；…すべきだったのに」

needn't have 過去分詞 「…する必要はなかったのに」 など

(4) 「今学期、彼の成績は上がった。彼は毎晩一生懸命勉強したに違いない。」

(5) 「この事故は起きる必要はなかった。これらの命が失われる必要はなかったと思う。」

2章 総合問題2

問題

【1】

A.

全訳

美しい声で鳴く鳥は普通、たった1度大きな湖を渡るだけで、体重を半減させてしまう。

B.

全訳

理解力に問題を抱えている学習者は、英語が母国語と同じように、いやそれどころかあらゆる言語と同じように、変化しやすいと気づいた時でさえ、その変化が非常に複雑で、時には非常に微妙なので、その変化に多くの規則を見つけるまでに、長い時間がかかるのが普通である。

C.

全訳

物事や出来事を明瞭に見ること、それも、それ自体でだけではなく、他の物事や出来事との関連において見るのが科学の目的である。そして科学的な仕事を楽しんでいる人——たとえそれが正確に記述するという低い水準の仕事であっても、また公式を発見するという高い水準の仕事であっても——「科学の実用性」について多くを聞きたいと思う人はいない。どんな芸術家も自己の芸術を実用本位に評価されることを好まないが、科学者は、少なくともこの点においては、芸術家を理解する。

【2】

解答

- (1) d (2) 「全訳」の下線部㉔参照。
(3) c (4) When [As ; After] I saw him
(5) 「全訳」の下線部㉕参照。
(6) ⑥ d ⑦ c ⑧ d (7) d
(8) ① a ② d ③ b

解説

- (1) I wasn't meaning to … は「…するつもりではなかった」の意。直前に I didn't recognize you when you first came in (あなたが最初に入ってきた時にはわからなかった) とあることから、「知らん顔をするつもりはなかった」となると考えられる。cut は「～を無視する；知らないふりをする」の意味。
(2) ○ add to ～ 「～を増す；強める」
○ the impression (he gave me) of …ing 「(私が彼について持った) …であるという印象」

○ have an air that ～「～という様子がある」

○ vaguely 「やや；何となく」

○ apologetic 「言い訳めいた；申し訳なさそうな」

下線部を直訳すると「それは私が彼に対して持った何となく言い訳めいた様子だという印象をさらに強くした」となる。

(3) one curious thing の内容は、その直後の Not once during ～ suspicion of a smile cross his face. に書かれている。なお、この文の主語は (even) the suspicion of a smile で、not once という否定語が文頭に出たために倒置されている。

(4) Seeing him more closely は、文脈から「もっと近くで彼を見ると」という「同時性」の意味。したがって、When [As] I saw him more closely,あるいは「時間的順序」と考えて、After I saw him more closely となる。

(5) it is a shock to …は「…することはショックだ」、of small importance は「of + 抽象名詞 = 形容詞」の公式を応用して「重要性が小さい、あまり重要ではない」の意。これを感嘆文の形にしたのが本文の of what small importance ～で、「いかに重要でないか (ということ)」の意味。to others は「他人にとって」の意。

(6)

① 直後に he looked down on me (彼は私を見下ろした) とあることから、彼の方が私より「背が高かった」はず。

② look wonderful (in fancy dress) ((豪華な服を着ると) 素晴らしく見える) と look absurd (滑稽に見える) という対照的な表現が使われていることから推測して、「豪華な服がよく似合いそうだが、実際に着てみるとおかしい」という文脈になるはず。英文に当てはめて考えると、「実際に着てみて滑稽に見えるとわかるまでは豪華な服がよく似合うように思う」となる。

③ 空所を含む文は「どうすれば彼が誰だったかを彼の気持ちを害すること () 聞き出せるかと考えていた」となる。without が入る。

(7) a ℓ. 26 He spoke Italian very well. 参照。

b ℓ. 6 It was evident that *he knew me*, and evident too that he had no notion that I did not also know him. 参照。

c ℓ. 5 the tones cultivated at Oxford and *copied by many who have never been there* 参照。

d ℓ. 6 (it was) evident too that he had no notion that I did not also know him 参照。一致する。

e ℓ. 1 He finished his dinner before me. ～ *stopped at my table*. 参照。

(8) ① recognize

② apologetic

③ suspicion

全訳

その男は私より先に食事を終えた。彼は立ち上がったが、出て行く時に私のテーブルのところで立ち止まった。そして、手を差し出してきた。

「どうも、お元気ですか。あなたが最初に入ってきた時には気が付きませんでした。知らん顔をするつもりはなかったのですが。」彼は言った。

彼は感じのいい声で、オックスフォード大学調の話し方——そこに行ったことがない人がよく真似をするのだが——で話した。彼が私のことを知っているというのは明らかだったが、私の方も彼のことを知っているわけではないということがわからないでいるというのも明らかだった。私は立ち上がったが、彼の方が私よりだいぶ背が高かったので、私を見下ろす感じになった。彼はどことなく疲れた感じだった。◎彼はやや猫背で、そのためにどことなく言い訳めいた雰囲気を持った印象がさらに強くなった。彼の態度はやや横柄でもあり、同時に、ややはにかんだ様子もあった。

「一緒にコーヒーでもいかがですか。独りなんです。」彼は言った。

「ええ、喜んで。」

彼は先に出ていったが、彼が誰か、どこで彼に会ったのか、私にはまだわからなかった。私は彼のことで1つ気が付いたことがあった。私たちが二言三言言葉を交わす間1度も、また、握手をした時にも、彼が会釈をして先に出ていった時にも、1度も彼は少しの笑みも浮かべなかったのである。もっと近くで見ると、彼はそれなりに格好がよかった。整った顔立ちで、灰色の眼は魅力的で、スラリとした体型だったが、私から見れば関心を引くものではなかった。愚かな女の人ならば、彼のことをロマンティックに見えると言うだろう。彼は、バーン＝ジョーンズの騎士の1人を思い起こさせた。もっとも彼の方が地位が高く、彼がそれらの不幸な騎士たちが悩まされていた慢性的な大腸炎をわずらっていたという兆候はなかったが。彼は、豪華な服がよく似合うようだが、実際にそんな服を着てみると滑稽に見えるタイプの男だった。

やがて、私は食事を終えて、ラウンジへ行った。彼は大きな肘掛け椅子に座っていて、私が来たのを見るとウェ이터を呼んだ。私は椅子に座った。ウェ이터がやって来て、彼はコーヒーとリキュールを注文した。彼はイタリア語がとても上手だった。私は、どうすれば彼が誰かを彼の気持ちを害さずに聞き出せるかと考えていた。人はいつも、他人が自分のことを覚えていないとやや困惑する。自分にとって自分はとても重要だからである。⑨他人にとっては自分がいかに重要でないかを知るのはショックなのである。

注

ℓ. 2 ◇ stretch out one's hand 「手を差し出す」

ℓ. 4 ◇ mean to … 「…するつもりである」

ℓ. 5 ◇ copy 「～を真似る」

ℓ. 6 ◇ it = that 以下

◇ have no notion that ～ 「～ということがわからない；思いつかない」

ℓ. 7 ◇ I did not also know him 「(彼は私を知っているが、) 私もまた彼を知っているというわけではない」

◇ risen < rise 「立ち上がる」

◇ a good deal 「ずっと；かなり」

ℓ. 8 ◇ look down on ～ 「～を見下ろす」

◇ hold oneself with a sort of languor 「何となく疲れた様子で立っている」

◇ stoop 「身をかがめる；猫背である」

ℓ. 10 ◇ a trifle [trárf] = a little

- ℓ. 15 ◇ not once 「1度も…ない」
- ℓ. 16 ◇ with a nod 「うなずいて、会釈して」
- ℓ. 17 ◇ in one's way 「それなりに」
- ℓ. 18 ◇ features 「容貌」
◇ figure 「体つき」
- ℓ. 19 ◇ a silly woman would say ～ 「愚かな女の人ならば～と言うだろう」
would は仮定法過去。条件は a silly woman。
- ℓ. 22 ◇ he was the sort of man whom ～ 「彼は～のような男であった」
◇ whom you expected to look wonderful in fancy dress 「豪華な服を着ると素晴らしく見えると思うような」
- ℓ. 23 ◇ absurd 「滑稽な」
- ℓ. 24 ◇ presently 「やがて」
- ℓ. 26 ◇ liqueur 「リキュール」
◇ by what means 「どういう方法で」
- ℓ. 27 ◇ offend 「～の気持ちを害する」

【3】

A.

解答

- (1) She came back in not more than half an hour [a half hour].
- (2) I don't think he has anything to do with the matter.
- (3) A foolish impulse made me say what I should have left unsaid.
- (4) It was not until five years later that I heard of his marriage.

解説

- (1) 「帰ってきた」は、came が与えられているので、came back で表す。
「30分そこそこ」の「そこそこ」とは、「せいぜい」「多くても」の意で、more が与えられていることから、not more than ～ で表せる。
「30分」は、hour が与えられていることから、half an hour, または a half hour。よって、not more than half an hour というまとまりができるが、その前に置く前置詞は、「～の後には」の意を表す in を用いる。
Ex. He will be back *in* a few days. (彼は数日経てば帰ってきます。)
- (2) 「彼は～に関係ないと思う」は、don't が与えられているので、「彼は～に関係あるとは思わない」という英語の発想で、I don't think … とする。
「彼は～に関係がない」は he has nothing to do with ～ だが、not が先行しているので、he has anything to do with ～ を後続させる。
Ex. I don't have anything to do with it. = I have nothing to do with it.
(私はそれには関係ない。)
- (3) A foolish impulse は「愚かな衝動」の意味で、A が大文字で与えられているので、主語である。したがって、「愚かな衝動が、私に言わないでおけばいいことを言わせ

た」の意の無生物主語の文にすればよいことがわかる。主語が無生物の場合の使役動詞は99%がmakeであるから、made me sayと続ける。

「言わないでおけばいいこと」は、should, unsaidが与えられていることから、「言わないでおくべきだったこと」と考えて、should have 過去分詞(…すべきだった)、leave ~ unsaid(～を言わないでおく)を、関係代名詞whatを用いてまとめれば、what I should have left unsaidとなる。

- (4) 「～に初めて…した」は、Itとuntilが与えられているので、It was not until ~ that …の構文を用いる。「それから5年後」はfive years later、「彼が結婚したことを聞く」は「彼の結婚のことを聞く」という名詞構文にして、hear of his marriageとする。

B.

解答

- (1) As soon as the exam [examination] is over, I am going on a trip with my brother.
(2) I was about to leave the supermarket, when I remembered that I had forgotten to buy plastic bags. Then I tried to buy some, but I didn't have enough money with me.

解説

- (1) 「試験が終わったら、すぐに…」はas soon as …の構文を用いて、as soon as the exam [examination] is over [ends], …とする。「旅行に出かける」はgo on [take] a trip [journey]を用いる。make a tripとすると「仕事上の旅行」を意味するのでここでは不可。

「旅行に出かけるつもり」の「つもり」には、「はっきりと具体化された計画」が感じられるので、I'm going to go on a tripよりも、進行形を用いてI'm going on a tripとする方がよい。

「兄」は正確にはmy elder brotherだが、英米人は一般に(区別して言う必要がない限り)elderやyoungerをbrotherやsisterに付けては使わないので、「解答」ではただmy brotherとした。

- (2) 「スーパーマーケットを出ようとして」の「…しようとする」をまず考えてみよう。これは「努力」を示すのではなく、「時間」を示す「(まさに) …しよう」ということなので、try to …ではなく、be about to …[be on the point of …ing]を用いる。「スーパーマーケットを出ようとして、ゴミ袋を買い忘れたことに気付いた」という日本語は、スーパーマーケットを出ようとしていた進行中の動作が、ゴミ袋のことを思い出した時点で中断されたことを表すので、When she was about to leave the supermarket, she remembered that …とせずに、She was about to leave the supermarket, when she remembered that …とするのが望ましい。

「ゴミ袋を買おうとした」は、「努力」を暗示していると考えて、I tried to buy ~ とするか、「ゴミ袋を買いに戻った」と考えて、I went back to buy ~ とする。ここでの「ゴミ袋」はthemで受けると特定のゴミ袋ということになってしまうのでsomeを用いる。

「お金が足りず」は「十分なお金を持っていなかった」と考えて、I didn't have

enough money (with me) とする。「買えなかった」の部分、I didn't have enough money の部分から明らかなのであえて書く必要はない。

【4】

解答

- (1) b (2) b (3) c (4) c (5) a
(6) b (7) c (8) d (9) a (10) a

解説

- (1) 「彼女の話聞いた人は皆、驚いた。」
all は一般に人を表す場合は複数扱いになる。
cf. All is quiet. (辺り一帯が静まり返っている。)
- (2) 「彼の家族は皆、その知らせを聞いてとてもうれしくなった。」
family は衆多名詞などと言われ、家族の「人々」を表すため複数扱い。
- (3) 「どの家庭も戸棚の中に骸骨がある。」
どんな家庭にも知られたくない秘密があることのたとえ。family は家族全体を1つとして考える場合には単数扱い。
- (4) 「彼女だけでなく私もまた、その新作の映画に興味を持っている。」
主語が not only A but also B の時、動詞は B に一致させる。
- (5) 「あなた方はどちらも今晚のミュージカルに出かけないのですね。」
neither of ～は単数扱いがふつう。
- (6) 「患者の半数がこの新薬に効果を示している。」
half of ～の単複は、原則として～の単複に一致する。
- (7) 「医師が言うには、彼女も私もどちらも健康だそうです。」
both she and I = we と考えてもよい。
- (8) 「この画家に関しては、たくさん本が出版されてきた。」
○ a number of ～ 「たくさん～ (複数扱い)」
cf. the number of ～ (～の数 (単数扱い))
- (9) 「ウィスキーソーダはお風呂の後には最高の飲み物だ。」
Whisky and soda は1つの飲み物として単数扱い。
- (10) 「この問題に関して、あなたか私のどちらかが悪い。」
(either) A or B が主語の時、動詞は B に一致させる。

【5】

解答・解説

- (1) The と are を削除
Most houses in Japan used to be made of wood. (日本家屋の大半はかつて木造だった。)
- (2) as good as is settled → as good as settled, hardly nothing → hardly anything
The problem is as good as settled and there is hardly anything left for us to do.

(その問題は解決したも同然で、私たちがやることはまったく残っていない。)

○ as good as ~ 「~も同然だ」

Ex. He is *as good as* a beggar. (彼は物乞い同然だ。)

- (3) なし「ジョーンズ氏は非常に影響力が強い。つまり、きわめて重要な人物だ。」

○ a most ~ 「きわめて~な」(絶対最上級)

- (4) few → fewer, fourty → forty, presents → present

「私は本当に驚いた。というのは、その部屋には 40 人もの生徒がいたからだ。」

- (5) なし「彼女は、日本ではずば抜けて最高の歌手であることは皆が認めている。」

3章 総合問題3

問題

【1】

A.

全訳

人々は大人になるにつれて遊ばなくなり、以前は遊びから得ていた喜びの収穫をあきらめるように見える。①だが、人間の心を理解している者ならば誰でも、人が1度味わってしまった喜びをあきらめることほど困難なことはまずないということを知っている。実のところ、私たちはあきらめることはできないのであり、ただ単に対象を入れ替えているにすぎないのである。②断念のように見えるのは、実は代用品の形成なのである。

B.

全訳

10歳まではほとんどすべての子供は天才のように絵を描く。15年後まだ天才のように絵を描く確率は40万に1人の割合である。大多数の人々が並の人間になったり、あるいは、かつてかくも驚くべき技術と独創性をもって示した技芸の存在そのものを忘れるというのに、一体なぜ、このほんのわずかな人々が子供時代の可能性を実現するのかは、未解決の謎である。

【2】

ポイント

今回は人間がテーマである。子供の躾の問題をとりあげてみた。本文は3つの段落から成り立っている。第1段落は子供に対する親の期待感を述べたもの、第2段落は、子供の躾の大切さを説き、道理にかなった行動を子供にとらせるのに躊躇するのは禁物であることを強調している。第3段落はまとめである。

この問題文は「Topic → Main Point → Conclusion」という明快な展開で書かれていることがわかる。

解答

- (1) 思いやり、優しさ、親の規範や理想を受け入れるのをいとわない気持ちを、子供が持つこと
- (2) ① in ② up
- (3) 生まれてきて面倒をかけたことを子供が口に出して感謝すること
- (4) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (5) the bad behavior (6) 夜、寝ないで起きていること (7) c, f

解説

- (1) return のあとにコロンがある。コロンは前に述べていることを詳しく述べたり要約したりするのに用いる。コロンのあとは、not A but B になっていることに注意する。

not A but B は「AではなくてB」であるから considerateness, affectionateness, and willingness to accept the parents' standards and ideals が something の内容であることがわかる。

○ considerateness 「思いやり」

○ affectionateness [ə'fekʃənətnəs] 「やさしさ」

cf. affectionate [ə'fekʃənət] = expressing fondness

○ willingness to accept the parents' standards and ideals

cf. willing to accept the parents' standards and ideals

○ be willing to ... 「…するのをいとわない」

(2)

⑥ *in return* = as a response, exchange, or reward for something (見返りに；代わりに)
子供を持つということは多くの犠牲を払うことになるのだから、その見返りとして何かを子供に期待しても当然であるという文脈である。

「交換の for」との連想から (×) for return としてしまう者が多いので注意。

⑦ *stay up* 「寝ずに起きている」 *sit up* は同じ意味であるが机などに向かっている場合に用いる。

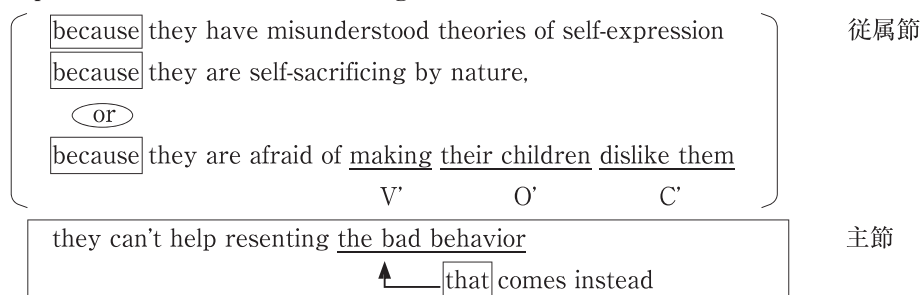
(3) *that's too much* は「それは要求のしすぎである」ということ。that は直前の spoken thanks for being born or being cared for を指している。

○ spoken thanks 「口に出して言う感謝の言葉」

○ care for = look after somebody who is sick, very old, very young, etc.

(4)

④◇ If parents are too hesitant in asking for reasonable behavior –



○ hesitant = slow to speak or act because you feel uncertain, embarrassed or unwilling

○ ask for = demand

○ reasonable behavior 「道理をわきまえた〔分別ある〕行動」

○ reasonable = rational

○ behavior は形容詞がついても通常 U

○ self-expression < express oneself

○ self-sacrificing < sacrifice oneself

○ by nature = naturally ; innately

○ resent = feel bitter or angry about

○ come = occur ; happen

○ instead = instead of reasonable behavior ※この instead は副詞

⑧

○ encourage A to …「A を励まして…させる」

○ firm 「きっぱりとした；断固とした」 permissive 「寛大な；甘い」の反対語として使われている。

○ it は how fast the children will sweeten up and the parents will, too を受ける仮主語。

○ sweeten up 「気持ちが和らぐ；穏やかになる」

○ sweeten *up* の up は completely の意味である。

○ sweeten = become pleasurable or gratifying

○ the parents will (sweeten up) , too

○ disagreeable tyrants になっていた子供の気持ちが agreeable なものになるということである。

(5) what to do about it 「それをどうすればよいか」直前で述べている「子供の悪い行動」の扱いに困るのである。

(6) this pleasure = staying up in the evening を指す。

○ stay up 「寝ないで起きている」

○ evening 「日没から就寝時間までの間」で日本語の「夜」の意味も含む。赤ん坊は早く寝るのが普通であるから、夜いつまでも起きているのを許すのは躑躅としてよくない。

(7)

a 「よい子供は生来自己犠牲的である。」

○ 本文の they (are self-sacrificing by nature) は parents を指す。一致しない。

b 「子供に道理にかなった行動をとらせるのを躊躇する親が多い。」

○ 本文には「親が子供に道理にかなった行動をとるように求めるのにあまりにも躊躇するならば」とある。そういう親が多いと言っているのではない。一致しない。

c 「親は子供を育てるためにはとても多くのことをあきらめなくてはならない。」

○ 冒頭の having children does mean giving up so much を言いかえている。一致。

d 「子供は親が腹を立てていることには気づかないのが普通である。」

○ They (= Parents) keep getting angrier underneath, without knowing what to do about it. This bothers the children, too. とある。親が心の中で怒っているのが子供にはわかるのである。一致しない。

e 「自分の子供が嫌いな親は子供を甘やかすことになる。」

○ 甘やかしたために子供が傍若無人になり、そのために親は子供を嫌うようになる。原因と結果が逆。

f 「生まれてきて、面倒をみてもらったことで、感謝の気持ちを表すように親が子供に期待するとしたら、それは期待のしすぎというものである。」

○ 第1段落の spoken thanks for being born or being cared for – that's too much を言いかえたものである。一致。

子供を持てばあきらめなくてはならないことがとても多いのだから、立派な両親がその見返りに子供に何かを現実要求する、あるいは要求をすべきだというのは当然のことである。生まれてきて面倒をかけたことを口に出して感謝するというようなことではなく——それでは要求のしすぎというものである——思いやりとか、優しさとか、親の規範や理想を受け入れるのをいとわない気持ちである。親は自分の思い込みで、自分のためにということだけでなく、子供が成長して他の人々と協力して幸福に生きて欲しいと願うから、このような特質を子供に持ってもらいたいと思うのである。

④親が自分の気持ちを表現するための方法を誤解してしまっていたという理由で、また親は本来自分を犠牲にするところがあるという理由で、また親が子供に嫌われるのを恐れるという理由で、子供に道理にかなった行動をとるように求めるのをあまりにも躊躇するとすれば、その代わりに子供が身につける悪い行動に必ず腹を立てることになる。親は子供の悪い行動をどうしてよいかわからずに、心の中では怒りが増していく。そのために子供も当惑する。こうなると子供はやましい気持ちになりおびえもするが、また前よりもいやすくなり、そのぶんだけいっそうわがままにもなる。例えば、もしも赤ん坊が夜寝ないで起きているのが好きになったとして、親がこの楽しみを拒むことが怖くてできないとすれば、数ヶ月のうちに赤ん坊は不快な暴君に変身し、そのために父と母は子供らを眠らせるため何時間も歩き続けなくてはならないかもしれない。親は傍若無人さにきっとその子供が嫌いになる。⑤もしも親が断固とした態度をとる勇気もてれば、いかに速く子供は心が和らぐようになり、親だってそうなるという事実は、驚異である。

言い換えれば、親が子供に道理にかなった行動をとらせることができない限り、結局は子供に対して正しく対応しているという気持ちにはなれないし、子供も道理にかなった行動をしていない限り幸せにはなれない。

注

- ℓ. 1 ◇ since 「理由」 (旧情報)
◇ naturally … 《文修飾》 ≡ It is natural …
- ℓ. 2 ◇ expect A from B = demand that B (somebody) will do A (something) because it is their duty or responsibility
- ℓ. 4 ◇ these qualities は considerateness, affectionateness, and willingness to accept the parents' standards and ideals を指す。
- ℓ. 5 ◇ not only A but also B 「A のみならず B」
◇ selfishly < selfish = caring only about yourself rather than other people
◇ for themselves 「自分のために」 ここでは「独力で」ではない。
○ selfishly と並列でほぼ同意。
- ℓ. 10 ◇ underneath [ʌndəˈniːθ] 「(表面とは違って) 心の底では」
- ℓ. 11 ◇ This は They keep getting angrier underneath, without knowing what to do about it を指す。
◇ It は This bothers the children, too. を指す。
◇ them は the children を指す。

- ◇ feel guilty = feel unhappy because you think you have done something wrong
- ℓ. 12 ◇ scared = fearful ; frightened
- ◇ it は This bothers the children, too. を指す。
- ◇ mean = unkind ; unfair ; spiteful
- 賤しき (素性など), 卑劣な (根性など), みすぼらしい (姿など), けちな (奴など),
取るに足らぬ (才能など), すべて mean で表現できる。
- ◇ all the more ~ 「その分だけずっと」
- the は 「その分だけ」 の意の副詞。
- ◇ demanding = (of a person) making others work hard or meet high standards ;
 not easily satisfied
- cf. a *demanding* president (厳しい社長)
- ℓ. 13 ◇ taste = a person's tendency to like or be interested in something
- ◇ be afraid to … 「怖くて…できない」
- ℓ. 14 ◇ deny A B = refuse to give A B (something requested or desired)
- ◇ them は the babies を指す。
- ◇ turn into = become
- ℓ. 15 ◇ disagreeable = unpleasant or unenjoyable
- ◇ tyrant [táɪrənt] = a person who treats the people they have authority over in a
 cruel and unfair way
- もちろんここでは、隠喩としておどけて用いられている。
- ◇ be bound to … = will certainly or probably …
- ℓ. 16 ◇ them は the babies を指す。
- ◇ for 「理由」
- ℓ. 18 ◇ right = justified 「間違いのない」
- feel right 「自分の判断に間違いがないと感じる」
- ◇ in the long run = over or after a long period of time ; eventually 「結局は」

【3】

A.

解答

- (1) You look exactly as your father did thirty years ago.
- (2) I was so sleepy that I couldn't keep my eyes open.
- (3) Don't forget to put out the light before you go to bed.
- (4) I saw him take something like a pot out of the box.

解説

- (1) 「あなたは父親に生き写しだ」は、普通の英語にすれば、You look exactly like your father. となるが、ここでは like ではなく、as が与えられているので、as 以下で節を形成すればよいことがわかる。「30 年前に君のお父さんがそう見えたように」と考えると、as your father looked thirty years ago となるが、looked の代動詞として did

を用いればよい。ちなみに、この問題では your father did が続くので、文法的に接続詞の as が正しいが、look が前にあるので、look like としないと極めて不自然というのが米国人インフォーマントのコメント。現代英語では、look like + 文という構造も普通である。

- (2) 「～ので…られなかった」という日本文で、so (sleepy), couldn't が与えられているので、so ~ that S couldn't … の構文を用いて、I was so sleepy that I couldn't … とする。「目を開けている」は、open が与えられているので、keep ~ C (～をCの状態にしておく) を用いて、keep my eyes open とすればよい。

- (3) 「必ず…しなさい」は、forget が与えられているので、Don't forget to … の形を用いる。「明かりを消す」は、put が与えられていることから、put out the light [put the light out] となる。put out は「(電灯・火などを) 消す」の意の表現で、out は副詞なので、目的語の前後どちらに置いてもよい。

「寝る前に」は、bed が与えられているので、before you go to bed とすればよい。

- (4) 「～が…するのを見た」は、saw が与えられているので、saw ~ … […ing] となる(その行為すべてを見たのなら saw ~ …, その行為の進行中の動作を見たのなら saw ~ …ing となるが、ここではどちらでもよい)。

「何か壺のようなもの」は、something like a pot でよい。

something like ~ には「何か～のようなもの」の意の他に、「およそ～」の意味もある。入試で差のつく慣用表現なので要注意。

Ex. He left something like a billion yen.

(彼は遺産として 10 億円ばかり残してこの世を去った。)

B.

解答

- (1) He worked very hard in order [so as] not to fail the entrance examination again.

別解 He studied really hard so that he would not fail [for fear he (should) fail] the entrance examination again.

- (2) He stopped smoking in order not to get lung cancer because many people suspect that there is a link between smoking and lung cancer.

別解 He stopped smoking so as not to get lung cancer because a large number of people suspect that smoking is responsible for lung cancer.

解説

「恐れ」を表す表現を扱う。

- (1) 「一生懸命勉強した」は worked [studied] very [really] hard, worked [studied] as hard as he could でよい(ただし、learn hard というコロケーションは存在しない)。「入学試験で失敗する」は fail the entrance examination (目的語に examination がくる場合は、fail は他動詞で用いるのが普通)。

「…しないように」は in order [so as] not to … (not to … 単独では不可) とするか、so that ~ can [will; may] not …, または、for fear ~ (should) … の形を用いる。

- (2) 「タバコをやめる」は「喫煙をやめる」ということなので、stop smoking を用いる。「肺

ガンにならないように」を、ただ not to get lung cancer とした人はいないだろうか。これは誤りで、in order [so as] not to get lung cancer としなければならない。これは「目的の不定詞を否定で用いる場合、not to … 単独では用いずに、in order [so as] not to … の形で用いる」というルールによる。ただし、「…しないように注意せよ」という「警告・命令」の内容の場合は例外で、not to … が用いられる。

cf. You have to be careful *not to* catch cold.

(風邪を引かないように気を付けなさい。)

「というのも、…」は、～ because … とする (～, for … は文語体なのでここでは避ける方がよい)。「…であるのにらんでいる人が多い」は、many [a large number of] people suspect … とする。ここでの「タバコ」も「喫煙」の意なので、cigarette ではなくて smoking とする。

「A と B との間には因果関係がある」は A has something to do with B, there is a link between A and B, A is responsible for B などと表すことができる (最初の 2 つは A と B に smoking, lung cancer のいずれを用いてもよいが、最後の表現では、A には smoking がこなければならない)。

【4】

解答・解説

(1) so

内容から so that S may [might] … の目的構文にする。

(2) to

It is ～ that … の強調構文である。We are invited to some such game of ～ by that power. という英文を考える。

(3) with

store A with B で「A に B を供給する」となる。supply A with B や provide A with B などと同じ用法。

全訳

物事を隠すのが神の栄光であり、神が隠した物事を探し出すのが我々の名誉である。ドイツでは復活祭 (イースター) の時に色を塗った卵を家や庭のまわりに隠すのだが、それは子供たちがそれらを探し出して楽しむためである。我々がこうしたかくれんぼのようなゲームをするのは、我々の中に隠されたものを見つけないという欲望を植えつけ、発見して喜べるようこの世界に隠された物事を散りばめた、神の力によって誘われるからである。

【5】

解答・解説

(1) We can't tell if it will rain tomorrow, but if it rains [does], we won't go on a picnic.

初めの if 節は名詞節であるため will が入るが、次の if 節は副詞節であるから現在時制。

- (2) We hadn't been married one year before I realized I had never really known my wife.
直訳は「妻のことを本当に知らなかったと気づく前, 1年も結婚していなかった。」となる。
- (3) It was not until we married that I saw my wife cry.
It is not until A that B (Aになって初めてB) は頻出構文。
- (4) I saw my wife cry for the first time in our married life.
直訳は「結婚生活で初めて」となる。
- (5) I saw my wife cry for the first time in five years.
○ for the first time in ~ years 「～年ぶりに」

添削課題

【1】

解答

- (1) Not until then did he realize that he must have lain there for hours.
(2) If you want to send an mail in someone else's name, you should type, in the "From" box, the name of the person on whose behalf you are sending the message.

解説

- (1) = It was not until then that he realized he must have lain for hours.
= He did not realize until then that he must have lain for hours.
(2) on *one's* behalf = on behalf of ~ 「~のために；~の代わりに」ここでは、You are sending the message *on his/her behalf*. という英文が内在している。

【2】

ポイント

まず主語を何にするかを決める。この場合は人一般を表す *you* にするのが普通であろう。

解答例

The first time you meet someone, in the first moment you form an impression in your mind of that person. You decide within the first few minutes what you like and don't like (about the person).

【3】

解答例

Origami, the craft of folding paper, is now enjoyed by many people in many countries for amusement, as an educational tool and as an art form. In traditional origami, squares of paper are folded into a limitless variety of decorations, animals and three-dimensional creations.

解説

第1文の日本語では「楽しんでいる」と人が主語になっているが、折り紙についての説明であるから、Origami を主語として全体を受動態にすればよい。

第2文の日本語では「作り出す」が主語になっているが、折り紙を行う際に最も中心となる「折る」という動詞を根幹にして英文を組み立てると平易になるかもしれない。

E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T（京大）

一橋大英語／難関大英語 T（一橋大）



Z-KAI

会員番号

氏 名

不許複製